

『岡本家イヌ事件』



つい最近のことです。かなり深刻な（あわや「家庭崩壊危機一髪」と言ってもいいほどの）信念対立を経験いたしました。

名付けて、「岡本家イヌ事件」。

ちょうど1カ月位前のことです。

とある木曜日の深夜1時半頃、寝ていた私の携帯電話が鳴りました。

訪問診療で診ていた胃癌の患者さんが亡くなったということで、そのご家族からの電話でした。

驚いたのはその後です。

うちの妻が、わざわざ起きて玄関までやって来て、「気をつけてね」

と笑顔で送り出してくれたのです。

とっても優しい妻ではありますが、いつもはそんなことはしませんから、なんでかなあ…と思いながら30km程離れている患者さん宅へ向かいました。

午前3時過ぎ頃に家に帰ってきて、自分の布団に入り込もうとしたら、

「お帰りなさい。お疲れ様」

と、優しい労いの言葉。

夜中に起こされて往診したこういう時というのは、布団に入ってももう眠れはしませんけど、昼間の診療になるべく支障をきたさないようにと思って、目をつぶって横になっています。この時もそうしていました。いつもの起きる時間より1時間ほど遅い6時頃に布団から出て参りましたら、おもむろに妻が「拓也さんに謝らなければならないことがある ...」と言います。

いつもと違う妻の‘異変’には気付いてはいましたから、思わず身構えて、「何？」と尋ねました。

妻が黙っていたので、ピンと来た私の方から尋ねました。

「もしかして、イヌ？」

「うん」

「買ったの？」

「うん」

しばらく前から、時折り、妻は、「犬を飼いたい」とか「すごくかわいい犬がいる」とか言っていたのです。でも、それほどまでしっかりと飼いたいと主張してきてはいなかったのです、そのこ

とについて妻ときちんと話し合うまでには至ってなかったんですね。

「いきなりそれはダメ。反則。認めない」

「お願い！」

「ダメ、ダメ。それは認めない」

「でももう買っちゃった。明日来る」

「明日!? いやいや明日って、え、何それ…ぼくは許可しないよ。ぼくは嫌だ」

「なんで、ダメなの？」

「今それを話し合っている時間はないです。とにかく認めてないからね」

……そんなやりとりがありました。

そして、翌金曜日の夕刻近く。訪問診療を終えてクリニックに戻ってきました。妻からラインのメッセージが届いていました。開いてみると、そこには、何枚もの愛らしい子イヌの写真。我が家の子どもたちが嬉しそうな表情で子犬を抱いている写真もあります。

ワンちゃん，来ました！！

